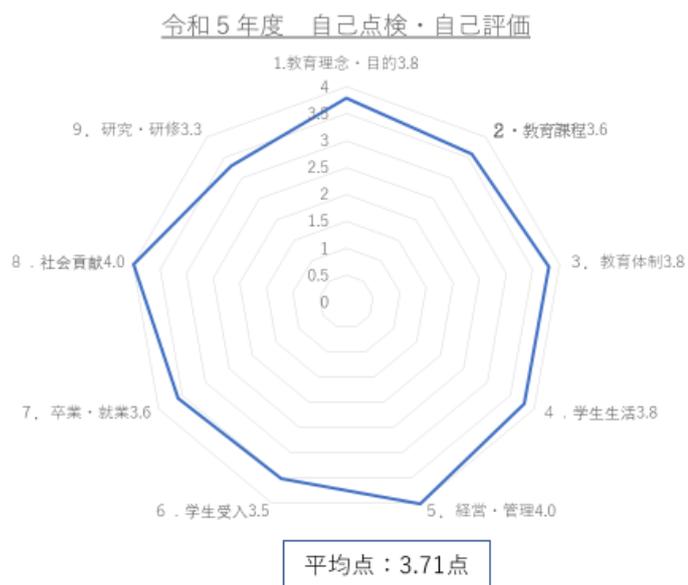


三重看護専門学校 自己点検・自己評価結果（令和5年度）

評価は4段階

（4：よくできている 3：できている 2：多少課題がある 1：かなり課題がある）



領 域	評価点
I 教育理念・教育目的・教育目標	3. 8
II 教育課程の考え方	3. 6
III 教育体制	3. 8
IV 学生生活	3. 8
V 経営・管理	4. 0
VI 入学生の受け入れ	3. 5
VII 卒業・就業・進学の様況	3. 6
VIII 社会貢献	4. 0
IX 研修・研究活動	3. 3

(総評)

新カリキュラムとなり2年目を迎えた令和5年度の各大項目の総合評価は、チャートが示すように平均点3.71(4点満点)であり、4:よくできている 3:できているの評価がほとんどであった。

教育課程に対しては、カリキュラムの進度表を基に計画通り進行できている。しかし、一部の学生に学習習慣、学習方法の課題が見られ再試験、再履修者は年々増加傾向である。1年次入学時より学習方法、ファイルの整理など時間をかけて指導している。学力低下が見られる学生に対しては、個々の学生に合わせた支援方法で学年担当、チューター教員が関わられるように検討し実施している。また、教員が導かなくても教科外活動(文化祭・防災訓練・ボランティア体験など)や社会人基礎力も含めて学生が自主的・創造性を持って行動できるように学生自治を利用しながら取り組んでいるが、さらなる強化が必要である。

各科目の授業評価に対しては、昨年よりWeb入力に切り替えた結果、回収率は87%であった。学生による外部講師・専任教員に対する授業評価は、講義内容や方法は全学年高い評価に有る。引き続き学生の主体的な学び、意欲や考える力を伸ばすための参加型討議、体験、反転授業(予習・復習のための課題提示)が更に充実する取り組みを考えていく必要がある。

実習に対する学生の自己評価は、「事前学習や日々の学習に意欲的に取り組む」「講義や演習と関連付ける」「自分なりに考える力」に対して課題があると評価している。実習では、知識と関連付けて学生自身が思考し判断していく力が求められ、教員は臨地での看護場面において、学習を想起させる発問、講義資料や教科書に戻りながらの学習方法を示唆することが大切である。教員に対する実習評価は、設問のほとんどが高い評価であり、行動計画やケア場面、カンファレンスの指導が比較的高得点であった。教員は相談しやすい雰囲気づくり、実習指導者と学生との関係がより良い学びにつながるよう努めることが大切である。

最後に、現在の大きな課題は入学生の確保である。18歳人口に伴い学生確保が困難になってきている。コロナ禍が追い打ちをかけ高校訪問、オープンキャンパスなど広報活動が予定通り実施できなかった。今年度は予定通り実施できたが、過去最低の受験者数であった。次年度に向け、対策を考えている。このような状況の中、更に教員のマンパワーが必要となっていてきている。教職員は今後も自己研鑽に努め、協力・連携を図り、学生への善き学びに繋げていきたい。

(学校関係者評価委員のコメント)

- ・低学力の学生が増えており、要因としては理解力が乏しく、学習意欲も高くない状況が個々数年一部の学生に見られる。シラバスに予習・復習する教科書のページを入れてはどうか。
- ・学習習慣についてもコロナ禍により、オンライン授業や学習のデジタル化が進み、目で見ることが増えなかなか覚えられないのではないか。もう少しアナログ的な「書く」ことも必要である。

- ・現在の在校生は、高等学校からコロナ対応に慣れてしまっており、コミュニケーションの希薄さも目立っている。
- ・生成 AI (ChatGPT) の使い方についても、医療機関では今後、補助的に使用することはあっても、人がアセスメントをしっかり行なうことが大事であるとする。
- ・看護師になるための心構え、意識付けについて、現役看護師自ら語ってもらうことで目標をしっかり持つことができるのではないか。
- ・広報活動や受験生の確保に対して、ホームページの構成や学校紹介 VTR、SNS での発信はわかりやすい。今以上に学校のカラー（アットホームな雰囲気や学生と教員の距離の近さ）を出しても良い。